

(特非) 大山千枚田保存会

房総地域における照葉樹林帯の 生物多様性の把握とその普及啓発活動

イベントの 延べ参加者数	2,100 人
農家インタープ リター養成人数	49 人
活動の全体目標 に対する達成度	80%



専門家と地元住民の生物調査

◆成果と工夫したポイント

●成果

全 29 回の自然観察会形式の調査を実施し、2,100 名の参加があり、その結果、生き物図鑑 1,000 部を発行した。地元農家を中心に、29 集落 49 名の農家インタープリターを養成した。

●工夫

地元農家に体験活動を新たな仕事として認知していただき、わずかではあるが、所得を得られるようにした。

課 題

南房総に広がる照葉樹林と周辺の里山環境の保全。棚田保全活動を行っている集落や、自然体験活動を実施している団体との連携を深めながら、保全策を考える。

目 標

南房総の農村生態系の種組成を把握し、その豊かさを、地元住民（特に農家）に普及し、地元住民が、自分たちで生態系保全活動を積極的に行える仕組み作り。

活動内容

年間 20 回の観察会形式の生き物調査を通じて、地元農家のインタープリターの養成や地域の生物相の把握を行った。

地元農家と会議を開き、保全のための会議を行った。調査結果をもとに、南房総の生き物図鑑を作成した。

水系一体となった農業・自然・暮らし体験プログラムの開発のために、地域の自然環境や歴史についての勉強会を開催した。



作成した生き物図鑑

達成できなかったこと

南房総全域で活動は行えたが、鴨川市、富津市を除くと、体験活動団体以外の集落への活動の周知が少なかった。

今後の展望

里山環境の中で最も課題と思われる草地環境の生態系の保全や、新たな活用について検討していく。